

都道府県名	岩手県
-------	-----

I 学校の概要(平成15年4月末現在)

学校名	九戸村立長興寺小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教職員
学級数	1	1	1	1	1		0	5	8
児童数	5	9	10	9	5	5	0	43	

II 研究の概要

1 研究主題

<p>基礎・基本の定着を図るために、「読むこと」の領域において、個人の実態に応じた指導法や言語的活動の在り方について実践的に明らかにする。</p>

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年 全学年 教 科 国 語 選択した理由 ・ NRT の結果から国語科の「読むこと」の領域が落ち込んでいることが明らかになった。そのためには各学年で身に付けるべき「読むこと」を明らかにし、その力を児童に系統的に継続指導していくことが必要だと考える。</p>

(2) 年次ごとのテーマ

平成15年度	<p>テーマ 国語科の「読むこと」の領域の学力向上 研究の見通し ・ 各研究内容の取組を評価時期毎に反省し、課題を明らかにして改善策に添って実践を積み重ねる。 研究の内容・方法 (1) 国語科の授業改善 「読むこと」の領域との関わりで 単元の重点指導 継続指導のための表の作成 (2) 個の実態把握と個に応じた指導 個人カルテの作成と活用 (3) 基礎・基本の指導の充実 漢字検定試験の実施 基礎学習訓練表の作成と指導 家庭学習の手引書の作成と活用 読書タイムの設定</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 国語科の「読むこと」の領域の学力向上 研究の見通し ・ 各研究内容の取組を評価時期毎に反省し、課題を明らかにして改善策に添って実践を積み重ねる。 研究の内容・方法 (1) 国語科の授業改善 「読むこと」の領域との関わりで 単元の重点指導の徹底 継続指導のための表を生かした指導 (2) 個の実態把握と個に応じた指導の充実 個人カルテの作成と活用 (3) 基礎・基本の指導の充実 漢字検定試験の実施 基礎学習訓練表の指導の徹底 家庭学習の手引書の効果的な活用 読書タイムの充実</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

研究推進委員会 _____ 学団部会(低・高) _____ 全体研究会(学力向上対策)

III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

1. 研究の内容

- (1) 国語科の授業改善 「読むこと」の領域との関わりで
単元の重点指導
「読むこと」の領域に関わって、前年度の CRT の結果から落ちている内容を洗い出し、その内容に関わる単元を重点的に指導する。

年間を通じた「読むこと」の継続指導のための表の作成
「読むこと」の領域に重点を置き、児童一人一人の実態を継続的に把握し、取り立てて指導すること、繰り返し指導することに役立つ。

- (2) 個の実態把握と個に応じた指導
個人カルテの作成と活用
・個人の実態を把握するための客観的な資料例とし、それを基に指導し、学力の向上を図る。

(3) 基礎・基本の指導の充実

漢字検定試験の実施	定期的に漢字検定を行い、漢字力の向上を図る。
基礎学習訓練表の作成と指導	基礎学習訓練表を基に学習訓練の徹底や学び方の指導を図る。
家庭学習の手引書の作成と活用	家庭での自主的学習態度、習慣の育成に努める
読書タイムの設定	選んだ本を静かに集中して読む児童を育てる。

2. 取組の評価(成果と課題)

成 果

- (1) 国語科の授業改善 「読むこと」の領域との関わりで
国語科の授業改善では、各学年の目標に合わせて CRT を分析して落ちているところを洗い出し、そのことを生かして重点的に指導することができた。「読むこと」を継続指導するための表(以下 継続表)は、一年間の指導事項について見通しをもちながら指導することに役立った。
- (2) 個の実態把握と個に応じた指導
個人カルテを作成し、職員全員が児童一人一人の実態を把握できるようになった。
- (3) 基礎・基本の指導の充実
漢字検定試験の実施は、事前事後のテストの比較から成果が見られる。
基礎学習訓練表を使った指導により全校で学習に取り組む姿勢が統一されてきている。
読書タイムの設定は、児童が選んだ本を静かに集中して読めるようになってきていることから「読むこと」の能力を伸ばすために役立ったと考える。

課 題

- (1) 「読むこと」の領域における指導の充実。そのために、個人の実態把握と継続表の関連付けを図った指導を進める。
- (2) 個人カルテについて、個に応じた指導の充実のために 幅広い活用方法を検討する。
- (3) 基礎・基本の確実な定着を目指し、支援方を考え、指導の充実を図る。

2 今後の課題

- (1) 国語科の授業改善 -----「読むこと」の領域との関わりで
 - ・ 各学年で「読むこと」の領域において前年度の CRT の結果から落ちている内容を洗い出し、個人の実態を把握する。
 - ・ その落ちている内容に関わって、継続表を生かし何をどの単元で重点的に指導していくのか明らかにして授業に取り組む。
 - ・ 指導力の向上を図るため、授業の交流を進める。
- (2) 個の実態把握と個に応じた指導
 - ・ 個人カルテには、「読むこと」の領域に絞って記入し、継続表と個人の実態と授業内容を関係付けながら指導する。
- (3) 基礎・基本の指導の充実
 - 漢字検定試験の実施
 - ・ より定着を図るために、まとめのテストを作成し、今後も繰り返して取り組む。
 - ・ 個人差に対応するため、練習時間を確保し、個に応じた指導をする。
 - 基礎学習訓練表の作成と活用
 - ・ 児童の意欲的な取組のために自己評価表を作成する。
 - 家庭学習の手引の作成と活用
 - ・ 授業と家庭学習との関連を図る。

IV 学力等把握のための学校としての取組

NRT	調査の目的 実施内容 時期	学力がどの程度身に付いたかを全国的基準と比較して確認し、補充指導に役立てる。 第2学年～第6学年 教科 国語、算数 4月
CRT	調査の目的 実施内容 時期	その学年の基礎的・基本的な内容が確実に定着しているか確認し、補充指導に役立てる。 第1学年～第6学年 教科 国語、算数 12月
AAI	調査の目的 実施内容 時期	学業不振の原因を調べ、学習指導改善のために役立てる。 第1学年～第6学年 6月

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会の開催実績及び開催予定

- (1) 説明会
 - 日時 平成15年4月25日
 - 場所 本校
 - 対象 PTA
 - 会の目的 フロンティアスクールの概要説明
- (2) 説明会
 - 日時 平成16年2月4日
 - 場所 九戸村立山根小学校

対 象 村内各校長、研究主任
 会の目的 フロンティアスクールとしての成果の発表
 (3) 研究会
 日 時 平成16年2月27日
 場 所 本校
 対 象 父母、地域の住民
 会の目的 フロンティアスクールとしての一年間の活動内容・成果の説明

研究成果普及のための活動

校報等による地域住民・保護者に普及、また、教育事務所管内の学校に資料を作成し配布する予定
 HP作成予定。

フロンティアティーチャーとしての研究普及のための活動実績予定について
 村内の学力向上対策委員会における成果の発表

【新規校・継続校】	* 15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	* 4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	* 国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	* 無		